

<p>麻酔科専門医研修プログラム名</p>	<p style="text-align: center;">昭和大学病院 麻酔科総合研修プログラム</p>	
<p style="text-align: center;">連絡先</p>	<p style="text-align: center;">TEL</p>	<p style="text-align: center;">03-3784-8575</p>
	<p style="text-align: center;">FAX</p>	<p style="text-align: center;">03-3784-8357</p>
	<p style="text-align: center;">e-mail</p>	<p style="text-align: center;">masuika@med.showa-u.ac.jp</p>
	<p style="text-align: center;">担当者名</p>	<p style="text-align: center;">早野直子</p>
<p style="text-align: center;">プログラム責任者 氏名</p>	<p style="text-align: center;">大嶽浩司</p>	
<p style="text-align: center;">研修プログラム 病院群</p> <p><small>*病院群に所属する全施設名をご記入ください。</small></p>	<p style="text-align: center;">責任基幹施設</p>	<p>昭和大学病院</p>
	<p style="text-align: center;">基幹研修施設</p>	<p>昭和大学横浜市北部病院 昭和大学藤が丘病院 昭和大学江東豊洲病院 国立成育医療研究センター</p>
	<p style="text-align: center;">関連研修施設</p>	<p>聖路加国際病院 湘南鎌倉総合病院 恩賜財団母子愛育会 愛育病院 公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 埼玉県立小児医療センター 小倉記念病院 東京ベイ浦安・市川医療センター 自治医科大学附属さいたま医療センター 誠馨会 千葉メディカルセンター 独立行政法人労働者福祉機構 東京労災病院 静岡済生会総合病院 東京都保健医療公社 荏原病院</p>

	<p>国家公務員共済組合連合会 東京 共済病院</p>
<p>プログラムの概要と特徴</p>	<p>昭和大学は東京・横浜の都心部に 4 つの附属病院を持つ。本プログラムは、附属 4 病院に加え、都内近郊にある専門性に秀でた基幹研修施設・関連研修施設と連携し、都心部から移動することなく、多様な症例を経験できるように構成されている。本プログラムの多彩な連携ネットワークは、心臓外科麻酔（成人・小児）、胸部外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、神経ブロック症例などの特殊麻酔に関する症例・指導者が充実しており、専門医取得後に自らのサブスペシャリティを確立していく機会に多く恵まれている。</p> <p>本プログラムの特徴は、上記の「多彩な臨床経験」に加え、「多様性」「海外経験」である。専攻医はペインクリニック、集中治療のローテーションを必ず行う。若いうちからの海外経験を重視し、どの専攻医もプログラム期間中に海外での学会発表の経験、海外病院への視察派遣ができるように指導を行う。さらに希望者には、救急や小児科など他診療科での研修、海外への臨床留学や、基礎の教室でのラボ研究など、自らのやりたいことを全面的にバックアップする体制も他に類をみない特徴である。</p>
<p>プログラムの運営方針</p>	<p>周囲から信頼され、患者の「命を守る」麻酔科医を育成することがプログラムの方針である。常に予期せぬことが起こりえる医療現場において患者の命を守るには、多様性、柔軟性を備えた言わば「不用意の用意」の心と、チーム医療においてリーダーシップを発揮できる高い倫理観と豊かな人間性が不可欠である。本プログラムでは関連施設と連携し、上記の資質を養い、周術期に患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供する。</p> <p>具体的なカリキュラムとしては、研修前半は附属 4 病院</p>

にて一般的な知識・技術を習得し，研修後半に関連施設にて専門的な経験を積むことを基本とする．ペインクリニック，集中治療の研修は，必ず一定期間行う．個別のローテーションに関しては，できる限り個人個人の希望に沿えるよう専攻医ごとにオーダーメイドのアレンジを行う．

また，半年ごとにプログラム責任者とフィードバック面談を行い，専攻医ごとの発展を評価する体制をとる．

昭和大学病院 麻酔科総合研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

昭和大学は東京・横浜の都心部に4つの附属病院を持つ。本プログラムは、附属4病院に加え、都内近郊にある専門性に秀でた基幹研修施設・関連研修施設と連携し、都心部から移動することなく、多様な症例を経験できるように構成されている。本プログラムの多彩な連携ネットワークは、心臓外科麻酔(成人・小児)、胸部外科麻酔、小児麻酔、産科麻酔、神経ブロック症例などの特殊麻酔に関する症例・指導者が充実しており、専門医取得後に自らのサブスペシャリティを確立していく機会に多く恵まれている。

本プログラムの特徴は、上記の「多彩な臨床経験」に加え、「多様性」「海外経験」である。専攻医はペインクリニック、集中治療のローテーションを必ず行う。若いうちからの海外経験を重視し、どの専攻医もプログラム期間中に海外での学会発表の経験、海外病院への視察派遣ができるように指導を行う。さらに希望者には、救急や小児科など他診療科での研修、海外への臨床留学や、基礎の教室でのラボ研究など、自らのやりたいことを全面的にバックアップする体制も他に類をみない特徴である。

2. プログラムの運営方針

周囲から信頼され、患者の「命を守る」麻酔科医を育成することがプログラムの方針である。常に予期せぬことが起こりえる医療現場において患者の命を守るには、多様性、柔軟性を備えた言わば「不用意の用意」の心と、チーム医療においてリーダーシップを発揮できる高い倫理観と豊かな人間性が不可欠である。本プログラムでは関連施設と連携し、上記の資質を養い、周術期に患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供する。

具体的なカリキュラムとしては、研修前半は附属4病院にて一般的な知識・技術を習得し、研修後半に関連施設にて専門的な経験を積むことを基本とする。ペインクリニック、集中治療の研修は、必ず一定期間行う。個別のローテーションに関しては、できる限り個人個人の希望に沿えるよう専攻医ごとにオーダーメイドのアレンジを行う。

また、半年ごとにプログラム責任者とフィードバック面談を行い、専攻医ごとの発展を評価する体制をとる。

研修実施計画の例（実際には個別の希望に応じてオーダーメイドで行う）

	1年目	2年目	3年目	4年目
A. 麻酔全般	昭和大学病院	昭和大学病院	聖路加国際病院, 成育医療研究センター	昭和大学江東豊洲病院, 東京ベイ医療センター
B. 麻酔全般	昭和大学横浜市北部病院	昭和大学横浜市北部病院	東京労災病院, 埼玉小児医療センター	昭和大学藤が丘病院, 小倉記念病院
C. 麻酔全般	昭和大学病院	昭和大学横浜市北部病院	湘南鎌倉病院, がん研有明病院	昭和大学病院, 成育医療研究センター
D. 産科, ブロック, ICU重点型	昭和大学横浜市北部病院	昭和大学病院	愛育病院, 東京労災病院	自治医大さいたま医療センター
E. 小児重点型	昭和大学病院	昭和大学病院	成育医療研究センター	愛育病院, 埼玉小児医療センター
F. 心臓重点型	昭和大学病院	昭和大学横浜市北部病院	湘南鎌倉病院, 自治医大さいたま医療センター	小倉記念病院, 埼玉小児医療センター
G. 大学重点型 (ママ対応)	昭和大学病院	昭和大学横浜市北部病院	昭和大学江東豊洲病院	昭和大学藤が丘病院

3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

1) 責任基幹施設

昭和大学病院 麻酔科認定病院番号: 33

プログラム責任者: 大嶽 浩司

指導医: 大嶽 浩司(主任教授), 信太 賢治(准教授), 岡安 理司(准教授),

尾頭 希代子(講師), 岡田 まゆみ(講師), 吉江 和佳(講師), 本田 直子

専門医: 中川 元文(医局長), 小島 三貴子, 小林 玲音,

田中 典子, 真一 弘士, 盛 直博

	症例数
麻酔科管理症例数	6463症例
小児(6歳未満)の麻酔	588症例
帝王切開術の麻酔	319症例

心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	173症例
胸部外科手術の麻酔	245症例
脳神経外科手術の麻酔	454症例

2) 基幹研修施設

昭和大学横浜市北部病院

麻酔科認定病院番号:928

研修プログラム管理者:小坂 誠

指導医:小坂 誠(教授), 世良田 和幸(教授), 大江 克憲(准教授),

小寺 志保(講師)

専門医:山田 新, 志村 裕子, 坂本 篤紀,

吉田 愛, 藤井 智子

	全症例	本プログラム分
麻酔管理症例数	5357症例	5257症例
小児(6歳未満)の麻酔	488症例	463症例
帝王切開術の麻酔	278症例	268症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	103症例	93症例
胸部外科手術の麻酔	242症例	217症例
脳神経外科手術の麻酔	1症例	1症例

昭和大学藤が丘病院

麻酔科認定病院番号:165

研修プログラム管理者:桑迫 勇登

指導医:桑迫 勇登(教授), 田中 雅輝(講師)

専門医:奥 和典(医局長), 長谷川 優子, 村上 和歌子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	4543症例	4543症例
小児(6歳未満)の麻酔	71症例	71症例
帝王切開術の麻酔	189症例	189症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	115症例	115症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	131症例	131症例

昭和大学江東豊洲病院

麻酔科認定病院番号:1182

研修プログラム管理者:鈴木 尚志

指導医:鈴木 尚志(教授), 大塚 直樹(准教授)

専門医:篠田 威人, 佐野 仁美

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	575症例	575症例
小児(6歳未満)の麻酔	3症例	3症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例	0症例

国立成育医療研究センター

麻酔科認定病院番号:87

研修プログラム管理者:鈴木 康之

指導医:鈴木 康之(手術・集中治療部長), 田村 高子(手術室長),

糟谷 周吾, 近藤 陽一

専門医:佐藤 正規, 小暮 泰大, 大杉 浩一

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	5086症例	255症例
小児(6歳未満)の麻酔	2724症例	200症例
帝王切開術の麻酔	649症例	20症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	240症例	20症例
胸部外科手術の麻酔	64症例	5症例
脳神経外科手術の麻酔	193症例	10症例

3) 関連研修施設

静岡済生会総合病院

麻酔科認定病院番号:293

研修実施責任者:山本 典正

指導医:山本 典正(麻酔科部長), 遠井 健司

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1222症例	0症例
小児(6歳未満)の麻酔	25症例	0症例

帝王切開術の麻酔	186症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	45症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	40症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	132症例	0症例

独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院 麻酔科認定病院番号:262

研修プログラム管理者:本多 信雅

指導医:本多 信雅(麻酔科部長)

専門医:伊達 久子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1832症例	1832症例
小児(6歳未満)の麻酔	48症例	48症例
帝王切開術の麻酔	70症例	70症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	37症例	37症例
脳神経外科手術の麻酔	142症例	142症例

公益財団法人がん研究会 がん研有明病院

麻酔科認定病院番号:779

研修プログラム管理者:横田 美幸

指導医:横田 美幸(麻酔科部長)

専門医:山内 章裕, 蛭名 稔明, 宮崎 恵美子,

山本 理恵, 中田 陽子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	7404症例	150症例
小児(6歳未満)の麻酔	0症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	476症例	150症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例	0症例

湘南鎌倉総合病院

麻酔科認定病院番号:1436

研修プログラム管理者:野村 岳志

指導医:野村 岳志(麻醉科主任部長), 小田 利通(麻醉科統括部長),

今永 和幸(麻醉科部長), 豊田 浩作(麻醉科部長)

専門医:渡辺 桂, 飯塚 悠祐, 石橋 美智子,

本田 香織

	全症例	本プログラム分
麻醉科管理症例	4128症例	100症例
小児(6歳未満)の麻酔	199症例	25症例
帝王切開術の麻酔	179症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	230症例	25症例
胸部外科手術の麻酔	55症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	97症例	0症例

埼玉県立小児医療センター

麻醉科認定病院番号:399

研修プログラム管理者:蔵谷 紀文

指導医:蔵谷 紀文(麻醉科部長), 濱屋 和泉, 佐藤 麻美子,

関島 千尋, 阿久津 麗香

	全症例	本プログラム分
麻醉科管理症例	2193症例	100症例
小児(6歳未満)の麻酔	1377症例	50症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	72症例	5症例
胸部外科手術の麻酔	25症例	1症例
脳神経外科手術の麻酔	122症例	5症例

小倉記念病院 麻醉科認定病院番号:52

研修プログラム管理者:瀬尾 勝弘

指導医:瀬尾 勝弘(麻醉科・集中治療部主任部長), 中島 研(救急部主任部長),

宮脇 宏, 角本 眞一, 近藤 香, 栗林 淳也

	全症例	本プログラム分
麻醉科管理症例	2945症例	25症例
小児(6歳未満)の麻酔	0症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例

心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	479症例	25症例
胸部外科手術の麻酔	59症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	122症例	0症例

誠馨会千葉メディカルセンター

麻酔科認定病院番号:1429

研修プログラム管理者:徳嶺 譲芳

指導医:徳嶺 譲芳(麻酔科主任部長), 丹羽 晴久(麻酔科部長)

専門医:藤谷 仁, 霜 知浩

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1567症例	40症例
小児(6歳未満)の麻酔	8症例	0症例
帝王切開術の麻酔	104症例	20症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	1症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	20症例	20症例

東京ベイ浦安・市川医療センター

麻酔科認定病院番号:1612

研修プログラム管理者:小野寺 英貴

指導医:小野寺 英貴(麻酔科主任部長)

専門医:方山 加奈

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1762症例	25症例
小児(6歳未満)の麻酔	257症例	0症例
帝王切開術の麻酔	20症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	115症例	25症例
胸部外科手術の麻酔	30症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	142症例	0症例

公益財団法人東京都保健医療公社 荏原病院

麻酔科認定病院番号:792

研修プログラム管理者:米良 仁志

指導医:米良 仁志(麻酔科部長), 加藤 隆文(医長)

専門医:生方 祐介, 橋本 誠, 中村 繭子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	2226症例	100症例
小児(6歳未満)の麻酔	29症例	0症例
帝王切開術の麻酔	59症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	43症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	80症例	0症例

聖路加国際病院

麻酔科認定病院番号:249

研修プログラム管理者:片山 正夫

指導医:片山 正夫(麻酔科部長), 宮坂 勝之(特別顧問), 青木 和裕 ,

専門医:岡田 修, 清水 美保, 藤田 信子,

菅波 梓, 篠田麻衣子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	5681症例	150症例
小児(6歳未満)の麻酔	259症例	10症例
帝王切開術の麻酔	373症例	10症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	269症例	10症例
胸部外科手術の麻酔	36症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	132症例	0症例

恩賜財団母子愛育会 愛育病院

麻酔科認定病院番号:1685

研修プログラム管理者:林 雅子

指導医:林 雅子(麻酔科部長), 新原 朗子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1430症例	0症例
小児(6歳未満)の麻酔	153症例	0症例
帝王切開術の麻酔	430症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例	0症例

自治医科大学附属さいたま医療センター

麻酔科認定病院番号:961

研修プログラム管理者:村山 隆紀

指導医:村山 隆紀(准教授), 石黒 芳紀(教授), 讃井 将満(教授),

大塚 祐史(准教授)

専門医:斎藤 裕一, 毛利 英之, 佐藤 和香子,

後藤 卓子

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	4919症例	0症例
小児(6歳未満)の麻酔	31症例	0症例
帝王切開術の麻酔	190症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	514症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	375症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	113症例	0症例

国家公務員共済組合連合会 東京共済病院

麻酔科認定病院番号:848

研修プログラム管理者:安藤 岳史

指導医:安藤 岳史(麻酔科部長)

	全症例	本プログラム分
麻酔科管理症例	1937症例	0症例
小児(6歳未満)の麻酔	0症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	90症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	161症例	0症例

本プログラムにおける前年度症例合計

麻酔科管理症例:61,270症例

	合計症例数
小児(6歳未満)の麻酔	1388症例
帝王切開術の麻酔	866症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	431症例

胸部外科手術の麻酔	600症例
脳神経外科手術の麻酔	653症例

4. 募集定員

10名

5. プログラム責任者 問い合わせ先

昭和大学病院 麻酔科 主任教授 大嶽浩司

東京都品川区旗の台1-5-8

TEL 03-3784-8575

6. 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

技能: 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技

2)エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技

知識: 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力

2)麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識

態度・習慣: 1)患者を中心に据えた高い職業倫理

2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ

3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

● 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。

a) バッグマスクを用いた気道管理

b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理

c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保

d) 分離肺換気を用いた気道管理

e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置

f) 中心静脈ラインの確保

g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔

- h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
- i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
- k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける.
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) はり療法
 - d) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を, 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて把握し, 臨床現場で問題解決する能力を体得する.
- 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる. 内容の詳細項目は末尾の別表を参照することとする.

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する.
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ, 日々の診療で実践できる.
 - b) 適切な態度で患者に接し, 麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し, インフォームドコンセントを得ることができる.
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され, 現場を統率できるリーダーシップを修得する.
 - a) 指導担当する医師と協調し, on the job training環境で学ぶことができる.
 - b) 研修医, コメディカル, 実習学生などに対し, 適切な態度で接しながら教育できる.
 - c) 特に緊急時には, 医療チームの司令塔として, 他科の医師やコメディカルと協働し, 統率力をもって, 刻々と変化する事象に対応することができる.
- 医療・医学の進歩に則し, 生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する.
 - a) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる.
 - b) 学会や雑誌などを通じて, 自発的に知識をアップデートし, 常に最新の知見を臨床に応用することができる.
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる.
 - d) 継続的に研究を行い, 学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる.

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積む.

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する.

・小児(6歳未満)の麻酔	25症例
・帝王切開術の麻酔	10症例
・心臓血管外科の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25症例
・胸部外科手術の麻酔	25症例
・脳神経外科手術の麻酔	25症例

別表 ②個別目標の知識において獲得すべき項目の詳細(公益法人日本麻酔科学会の定める教育ガイドラインに準拠する。)

1) 総論:

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義, 医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上: 麻酔の合併症発生率, リスクの種類, 安全指針, 医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理, 環境整備について理解し, 実践できる。

2) 生理学: 下記の臓器の生理・病態生理, 機能, 評価・検査, 麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡, 電解質
- i) 栄養

3) 薬理学: 薬力学, 薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序, 代謝, 臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論: 麻酔に必要な知識を持ち, 実践できる

- a) 術前評価: 麻酔のリスクを増す患者因子の評価, 術前に必要な検査, 術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器, モニター: 麻酔器・麻酔回路の構造, 点検方法, トラブルシューティング, モニター機器の原理, 適応, モニターによる生体機能の評価, について理解し, 実践ができる。
- c) 気道管理: 気道の解剖, 評価, 様々な気道管理の方法, 困難症例への対応などを理解し, 実践できる。
- d) 輸液・輸血療法: 種類, 適応, 保存, 合併症, 緊急時対応などについて理解し, 実践がで

る.

- e) 脊髄くも膜下麻酔, 硬膜外麻酔: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる
- f) 神経ブロック: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる.

5) 麻酔管理各論: 下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について, それぞれの特性と留意すべきことを理解し, 実践ができる.

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 成人心臓手術
- e) 血管外科
- f) 小児外科
- g) 小児心臓外科
- h) 高齢者の手術
- i) 脳神経外科
- j) 整形外科
- k) 外傷患者
- l) 泌尿器科
- m) 産婦人科
- n) 眼科
- o) 耳鼻咽喉科
- p) レーザー手術
- q) 口腔外科
- r) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理: 術後回復室における患者評価, 術後の合併症とその対応に関して理解し, 実践できる.

7) 集中治療: 成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し, 実践できる.

8) 救急医療: 救急医療の代表的な病態とその評価, 治療について理解し, 実践できる. それぞれの患者にあった蘇生法を理解し, 実践できる. AHA-ACLS, またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し, プロバイダーカードを取得している.

9) ペイン: 周術期の急性痛・慢性痛の機序, 治療について理解し, 実践できる.

昭和大学病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) はり療法
 - d) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，ペインクリニックに必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

昭和大学 横浜市北部病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロック, 漢方など痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) 漢方の疼痛管理手法
 - d) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，ペインクリニックに必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

昭和大学 藤が丘病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，ペインクリニックに必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

昭和大学 江東豊洲病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，ペインクリニックに必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

国立成育医療研究センター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)小児麻酔, 小児集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 小児麻酔，小児集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

聖路加国際病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

湘南鎌倉総合病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

恩賜財団母子愛育会 愛育病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

技能: 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技

知識: 1)生体情報モニターなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し、現場で問題解決する能力

2)産科麻酔に関する専門知識

態度・習慣: 1)患者を中心に据えた高い職業倫理

2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ

3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 末梢血管の確保
 - e) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔
 - f) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - g) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を, 生体情報モニターなどを用いて把握し, 臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 産科麻酔に必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ, 日々の診療で実践できる。

- b) 適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され、現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し、on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医、コメディカル、実習学生などに対し、適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には、医療チームの司令塔として、他科の医師やコメディカルと協働し、統率力をもって、刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し、生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて、自発的に知識をアップデートし、常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会、外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い、学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため、個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず、全プログラム期間を通じて、定められた手術麻酔、集中治療、ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

公益財団法人がん研究会 がん研有明病院

研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロック, 緩和治療など痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療, 緩和治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) 緩和治療の様々な方法
 - d) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニターなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，緩和治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

小倉記念病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療，ペインクリニックに必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

埼玉県立小児医療センター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2) 小児麻酔, 小児集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - l) バッグマスクを用いた気道管理
 - m) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - n) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - o) 分離肺換気を用いた気道管理
 - p) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - q) 中心静脈ラインの確保
 - r) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - s) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - t) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - u) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - v) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - c) 上肢・下肢の神経ブロック
 - d) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 小児麻酔，小児集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - c) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - d) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - d) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - e) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - f) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - e) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - f) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - g) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - h) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

東京ベイ浦安・市川医療センター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

自治医科大学附属 さいたま医療センター

研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し, 緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
 - j) 人工心肺・PCPSなどの体外循環管理
 - k) 経食道エコーによる循環管理
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者，集中治療患者の動態を，生体情報モニター，経食道エコーなどを用いて把握し，臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔，集中治療に必要な知識を修得し，臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ，日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され，現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し，on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医，コメディカル，実習学生などに対し，適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には，医療チームの司令塔として，他科の医師やコメディカルと協働し，統率力をもって，刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し，生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて，自発的に知識をアップデートし，常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い，学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため，個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず，全プログラム期間を通じて，定められた手術麻酔，集中治療，ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

誠馨会 千葉メディカルセンター 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニター, 経食道エコーなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し, 現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を, 生体情報モニターなどを用いて把握し, 臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔, 集中治療に必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム

末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ、日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され、現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し、on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医、コメディカル、実習学生などに対し、適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には、医療チームの司令塔として、他科の医師やコメディカルと協働し、統率力をもって、刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し、生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて、自発的に知識をアップデートし、常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会、外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い、学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため、個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず、全プログラム期間を通じて、定められた手術麻酔、集中治療、ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

独立行政法人労働者福祉機構 東京労災病院

研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

技能: 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔に必要な手技

2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技

知識: 1)生体情報モニターなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し、現場で問題解決する能力

2)麻酔に関する専門知識

態度・習慣: 1)患者を中心に据えた高い職業倫理

2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ

3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して、ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を、生体情報モニターなどを用いて把握し、臨床現場で問題解決する能力を体得する。

- 麻酔, 集中治療に必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる. 内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする.

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する.
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ, 日々の診療で実践できる.
 - b) 適切な態度で患者に接し, 麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し, インフォームドコンセントを得ることができる.
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され, 現場を統率できるリーダーシップを修得する.
 - a) 指導担当する医師と協調し, on the job training環境で学ぶことができる.
 - b) 研修医, コメディカル, 実習学生などに対し, 適切な態度で接しながら教育できる.
 - c) 特に緊急時には, 医療チームの司令塔として, 他科の医師やコメディカルと協働し, 統率力をもって, 刻々と変化する事象に対応することができる.
- 医療・医学の進歩に則し, 生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する.
 - a) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる.
 - b) 学会や雑誌などを通じて, 自発的に知識をアップデートし, 常に最新の知見を臨床に応用することができる.
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる.
 - d) 継続的に研究を行い, 学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる.

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため, 個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず, 全プログラム期間を通じて, 定められた手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積むこととする.

静岡済生会総合病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1)呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2)エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1)生体情報モニターなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し、現場で問題解決する能力
 - 2)麻酔, 集中治療に関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1)患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2)多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3)研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して, ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を, 生体情報モニターなどを用いて把握し, 臨床現場で問題解決する能力を体得する。
- 麻酔に必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付し

た別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ、日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され、現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し、on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医、コメディカル、実習学生などに対し、適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には、医療チームの司令塔として、他科の医師やコメディカルと協働し、統率力をもって、刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し、生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して、指導医に尋ねることはもとより、自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて、自発的に知識をアップデートし、常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会、外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い、学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため、個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず、全プログラム期間を通じて、定められた手術麻酔、集中治療、ペインの十分な臨床経験を積むこととする。

東京都保健医療公社 荏原病院 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニターなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し、現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して、ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を, 生体情報モニターなどを用いて把握し, 臨床現場で問題解決する能力を体得する。

- 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる. 内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする.

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する.
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ, 日々の診療で実践できる.
 - b) 適切な態度で患者に接し, 麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し, インフォームドコンセントを得ることができる.
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され, 現場を統率できるリーダーシップを修得する.
 - a) 指導担当する医師と協調し, on the job training環境で学ぶことができる.
 - b) 研修医, コメディカル, 実習学生などに対し, 適切な態度で接しながら教育できる.
 - c) 特に緊急時には, 医療チームの司令塔として, 他科の医師やコメディカルと協働し, 統率力をもって, 刻々と変化する事象に対応することができる.
- 医療・医学の進歩に則し, 生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する.
 - a) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる.
 - b) 学会や雑誌などを通じて, 自発的に知識をアップデートし, 常に最新の知見を臨床に応用することができる.
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる.
 - d) 継続的に研究を行い, 学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる.

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため, 個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず, 全プログラム期間を通じて, 定められた手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積むこととする.

国家公務員共済組合連合会 東京共済病院

研修カリキュラム到達目標

①一般目標

医療チームの司令塔として患者の命を守る麻酔科医に成長するために、下記の技能、知識、態度・習慣を修得し、臨床現場で実践できる能力を身につける。

- 技能:**
- 1) 呼吸・循環管理, 蘇生などの麻酔・集中治療に必要な手技
 - 2) エコーや透視をガイドにした神経ブロックなど痛み治療に必要な手技
- 知識:**
- 1) 生体情報モニターなどを用いて刻々と変わる患者の動態を把握し、現場で問題解決する能力
 - 2) 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに関する専門知識
- 態度・習慣:**
- 1) 患者を中心に据えた高い職業倫理
 - 2) 多職種からなる医療チームから信頼されるリーダーシップ
 - 3) 研鑽を継続する向上心

②個別目標

技能

- 麻酔・集中治療に必要な手技を修得し、緊急時にも落ち着いて確実に実践できる。
 - a) バッグマスクを用いた気道管理
 - b) 気管挿管, 声門上器具による気道管理
 - c) Difficult Airwayに対して、ビデオ喉頭鏡や輪状甲状軟骨切開などを用いた気道確保
 - d) 分離肺換気を用いた気道管理
 - e) 末梢血管の確保, 動脈ライン留置
 - f) 中心静脈ラインの確保
 - g) 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔, 仙骨麻酔
 - h) PCA などを用いた術後鎮痛の管理
 - i) 緊急時の蘇生術(胸骨圧迫など)
- エコーや透視をガイドにした神経ブロック, はり療法など痛み治療に必要な手技を身につける。
 - a) 上肢・下肢の神経ブロック
 - b) 体幹の神経ブロック
 - c) その他疼痛療法に必要な手技

知識

- 刻々と変わる周術期患者, 集中治療患者の動態を、生体情報モニターなどを用いて把握し、臨

床現場で問題解決する能力を体得する。

- 麻酔, 集中治療, ペインクリニックに必要な知識を修得し, 臨床現場で活用できる。内容の詳細項目はプログラム末尾に付した別表を参照することとする。

態度・習慣

- 患者を中心に据えた高い職業倫理を修得する。
 - a) 医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ, 日々の診療で実践できる。
 - b) 適切な態度で患者に接し, 麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し, インフォームドコンセントを得ることができる。
- 多職種から構成される医療チームのメンバーから信頼され, 現場を統率できるリーダーシップを修得する。
 - a) 指導担当する医師と協調し, on the job training環境で学ぶことができる。
 - b) 研修医, コメディカル, 実習学生などに対し, 適切な態度で接しながら教育できる。
 - c) 特に緊急時には, 医療チームの司令塔として, 他科の医師やコメディカルと協働し, 統率力をもって, 刻々と変化する事象に対応することができる。
- 医療・医学の進歩に則し, 生涯を通じて自己研鑽できる向上心を体得する。
 - a) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。
 - b) 学会や雑誌などを通じて, 自発的に知識をアップデートし, 常に最新の知見を臨床に応用することができる。
 - c) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスの場で積極的に討論に参加できる。
 - d) 継続的に研究を行い, 学術集会や学術出版物にその成果の発表をすることができる。

③経験目標

専攻医ごとの希望に添ったオーダーメイド型のプログラムであるため, 個別の施設ごとの経験目標症例数は定めず, 全プログラム期間を通じて, 定められた手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積むこととする。